

総合計画の概要

現状等

時代の潮流

○人口減少と少子・超高齢社会の進行

○日常生活における危機感の高まり

○グローバル化の進展と環境問題に対する地球規模での取り組み

○情報化の進展と知的・文化的価値観を尊重する社会の到来

○地方分権・構造改革・規制緩和の進展

富山市の特性等

○地理的特性
位置・面積
東 西 60.7 km
南 北 43.8 km
総面積 1,241.85 km²
地勢
海拔 0mから標高 3000mに及ぶ広大な面積を有し、古くから川で結ばれた文化圏を形成

○歴史的特性
・売薬で「くすりのとやま」の名が知れわたる
・水力発電の豊富な電力により工業が発展
・空襲で市街地が壊滅的被害を受ける
・平成17年に7市町村の合併により新富山市が誕生など

○富山市を取り巻く状況
・中心市街地の空洞化と中山間地域の過疎化
・県内最大の人口と面積
・国内外の交通の結節点
・北陸新幹線の開業など

人口の見通し

平成28年（推計）

総人口 41万2千人
世帯数 16万世帯

まちづくりの主要課題

（１）人口減少と少子化への対応

本市の人口は、減少傾向に転じ、年少人口も減少し続けていくと予測しています。少子化が進展し、人口が減少し続けると、地域の活力の低下を招くばかりではなく、現行の各種制度の維持が困難になります。

今後は、あらゆる分野において子どもを生み育てやすい環境の整備を図るとともに、子どもたちの個性を尊重し、生きる力を育む教育の充実に努めながら、人口減少社会を見据えた施策を推進する必要があります。

（２）超高齢社会への対応

本市の人口構成は、平成30年代には概ね総人口の3人に1人が65歳以上の高齢者になり、核家族化の進展により一人暮らしの高齢者も増加すると予測しています。

今後は、高齢者一人ひとりの生活が尊重され、住み慣れた地域で生涯にわたり健康で生きがいをもって暮らせる社会づくりを進める必要があります。

（３）危機管理・防災対策

本市は、急峻な山々や大小の河川、特別豪雪地帯、活断層などを有しているため、災害の発生が危惧されています。

今後は、これら自然災害への防災対策に加え、感染症の発生、危険物の流出、さらにはテロなどへの対応を含めた総合的な危機管理体制を整備する必要があります。

（４）環境政策

本市の豊かな自然環境などを将来に継承し、さらには地球温暖化をはじめとする地球規模の環境問題に積極的に取り組む必要があります。

今後は、市民・企業・行政が一体となって「もったいない」の心がけによりエネルギー資源の無駄をなくすため、リデュース（発生抑止）、リユース（再使用）、リサイクル（再利用）を実践するとともに、新エネルギーの積極的な活用を図るなど、地球環境の保全に向けた活動を展開していく必要があります。

（５）森林政策

本市の面積の約7割は森林が占めていますが、林業の衰退により森林荒廃が進み、土砂崩壊防止や野生鳥獣保護などの森林の果たす多面的な機能の低下が懸念されています。

今後は、市民共通の認識のもと多様な森林政策を推進し、自然との共生を図っていく必要があります。

（６）個性ある地域の発展と一体性の確保

本市には、海岸部から山岳地帯までの広大な市域に、それぞれの地域が受け継いできた豊かな自然、歴史・伝統文化があります。

今後は、これらの地域の個性を大切にしながら、それぞれの地域が交流・連携し、それぞれの持つ特性を全市民共通の財産としていくことにより一体性を確保し、一層の発展につなげていく必要があります。

（７）広域的な拠点性の向上

本市は、鉄道、道路、空港、港湾などの基盤整備が進んでおり、交通の要衝地となっています。

さらに、北陸新幹線や富山高山連絡道路の整備、富山空港の機能充実により国内外との物流や交流人口の増加が見込まれる一方、いわゆるストローク現象の発生が懸念されています。

今後は、「街の顔」となる富山駅周辺や中心市街地への高次都市機能の一層の集積により、日本海側有数の中核都市としての拠点性を高める必要があります。

（８）コンパクトなまちづくり

本市は、中心市街地の人口の空洞化が進み、薄く広がった市街地を形成しており、このような人口が拡散した都市はさまざまな機能が非効率であるといえます。

今後は、市街地の拡散に歯止めをかけ、都心部やそれぞれの地域の生活拠点地区への人口回帰を図り、都市機能や生活の諸機能を集積させ、鉄軌道やバスなどの公共交通の活性化を軸とした、歩いて暮らせるコンパクトなまちづくりを進める必要があります。

（９）地域力の強化

本市には、住民組織、ボランティア団体、教育・文化団体など、地域で活発に活動している組織・団体が数多くあります。

今後は、これらの組織・団体をはじめとして、市民との協働により福祉や環境、防犯・防災などのさまざまな分野を担う人づくりや、地域の子どもたちを地域の中で守り育てるなど、地域全体で支えあう仕組みづくりを進め、地域力を高める必要があります。

（10）地域産業の活性化

本市では、「くすりの富山」として有名な医薬品製造などの工業や、稲作を中心とする農業、富山湾での水産業など、市民の暮らしを支えるさまざまな産業が発展してきました。

今後は、これらの基盤産業の発展を図るとともに、企業立地の促進や新たな産業の育成にも努め、地域産業を活性化する必要があります。

（11）富山の魅力の発信

本市には、海・川・森・山などの豊かな自然環境があり、これらに育まれた魚介類や農産物をはじめとする特産品や食文化、さらには、歴史・伝統文化など多様な資源があります。

今後は、市民一人ひとりがこれらの資源に誇りを持ち、守り育てるとともに、国内外にその魅力を発信する必要があります。

（12）効率的な行財政運営

本市の財政状況は、市税収入をはじめとした歳入の伸びが期待できない一方、扶助費や公債費などの義務的経費が増嵩するため、今後も極めて厳しい状況が続くと見込まれます。

今後は、財政の健全性を維持しつつ、成果を重視した効果的かつ効率的な行政運営を進めていく必要があります。

基本理念

「共生・交流・創造」

まちづくりの目標

安心

人が輝き安心して暮らせるまち
すべてのライフステージで学ぶことができ、多様な価値観が尊重されながら、地域の中でやさしさに包まれ安心して暮らせるまちづくりを進めます。

安全

すべてにやさしい安全なまち
あらゆる危機に対応するため、市民と行政の役割分担を再構築し、安全で快適に暮らせるまちづくりを進めます。

潤い

都市と自然が調和した潤いが実感できるまち
都心部から自然豊かな中山間地域までの特色あるそれぞれの地域で、個人のライフスタイルを尊重した多様な住み方・暮らし方が実現できるまちづくりを進めます。

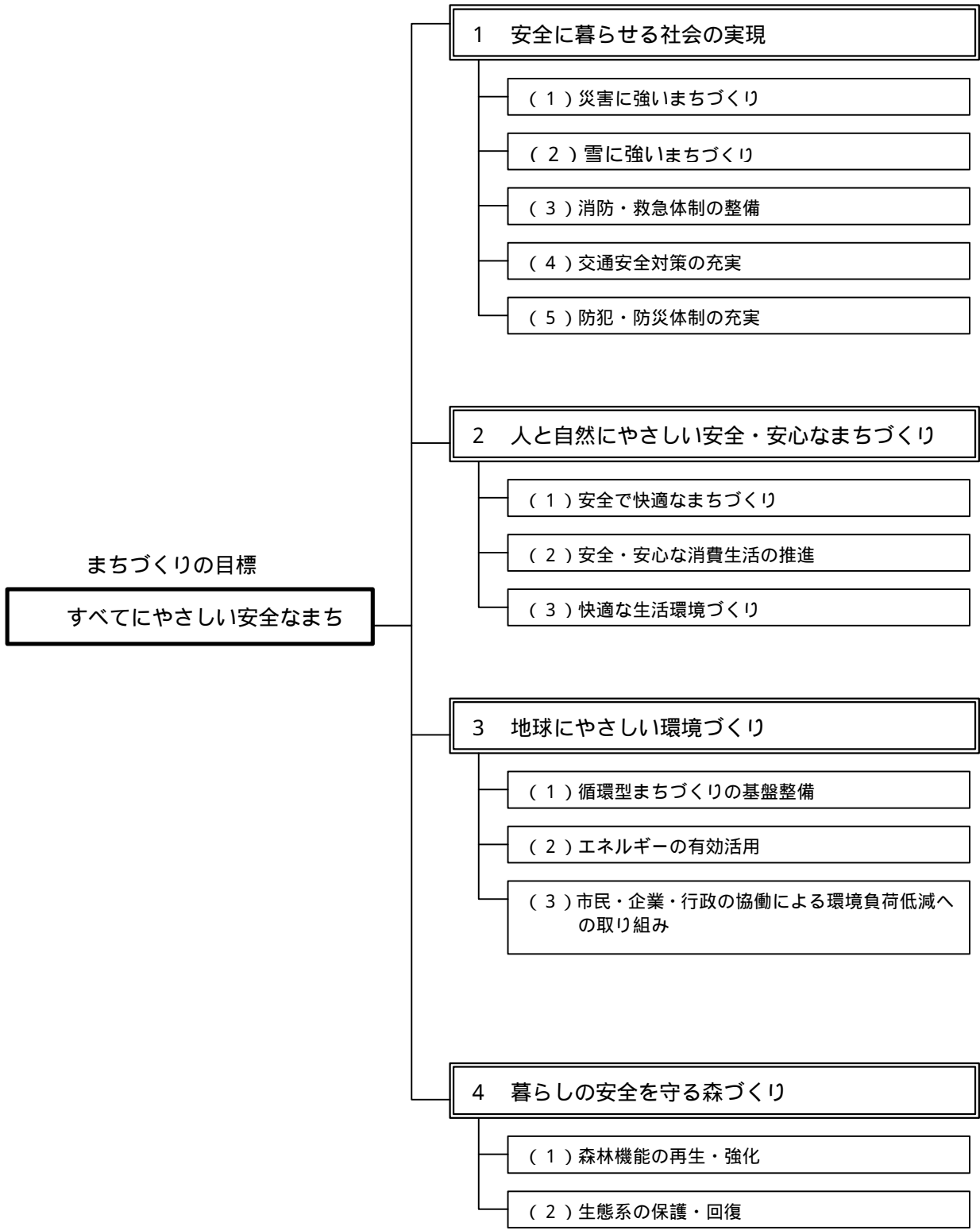
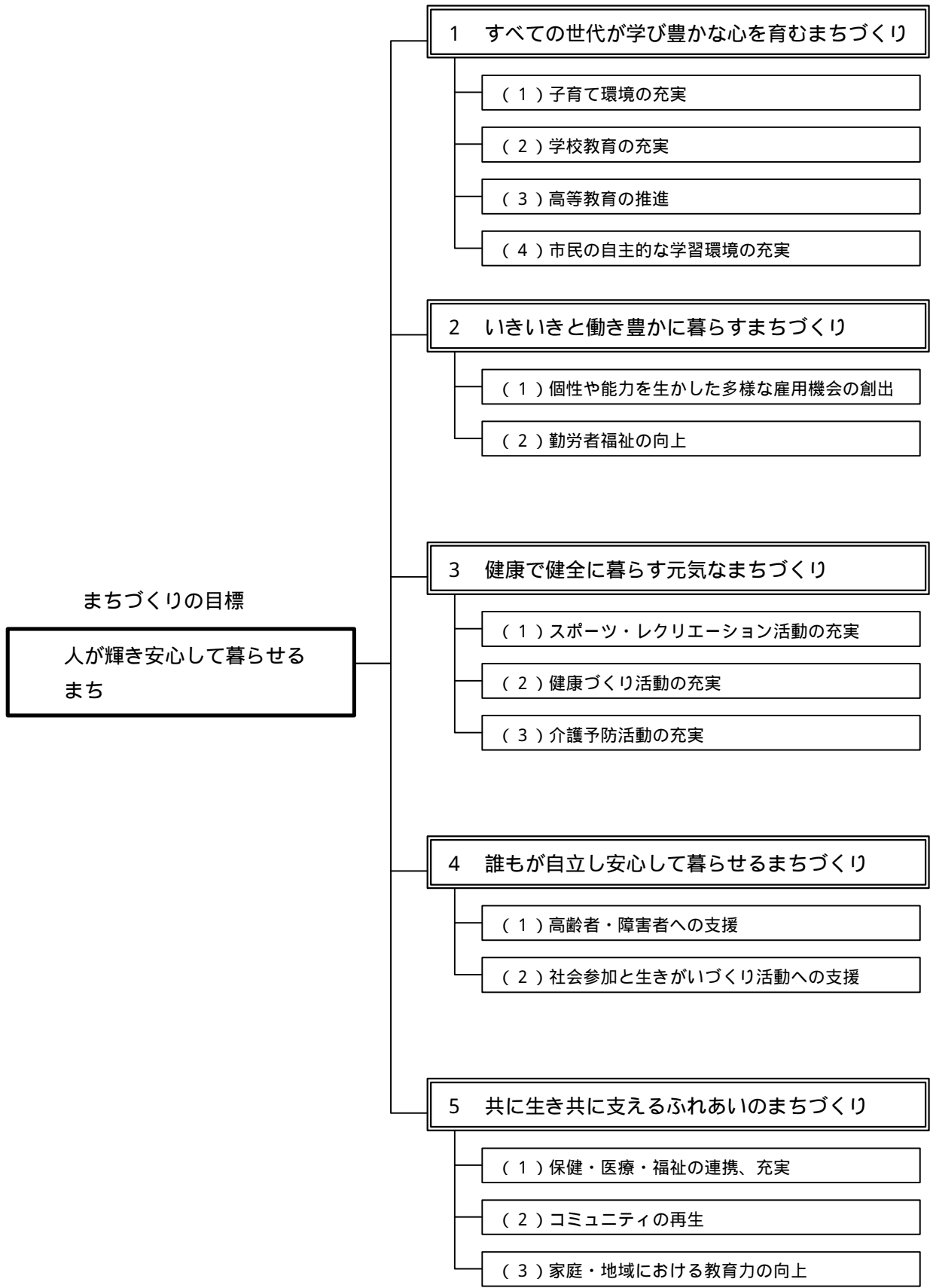
活力

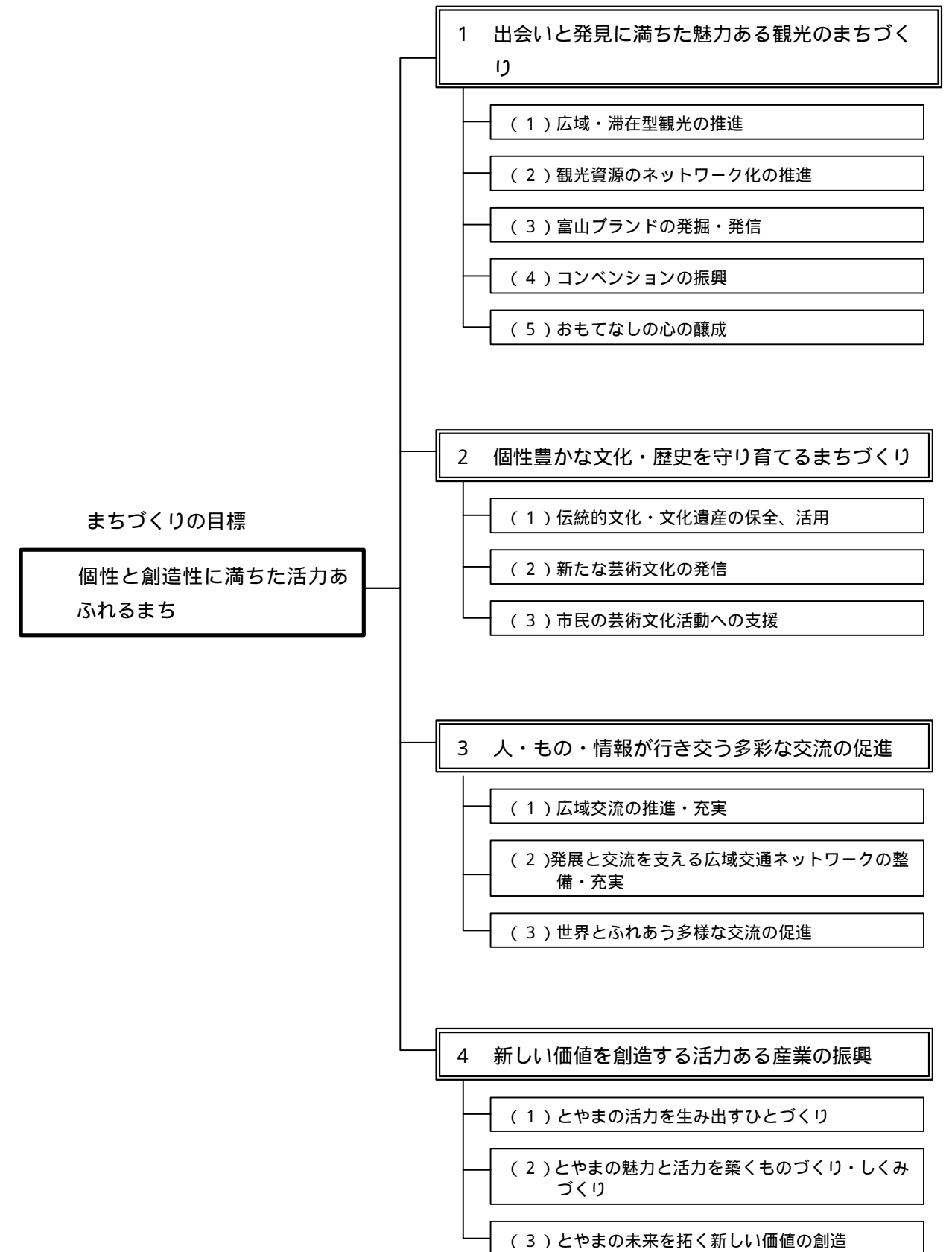
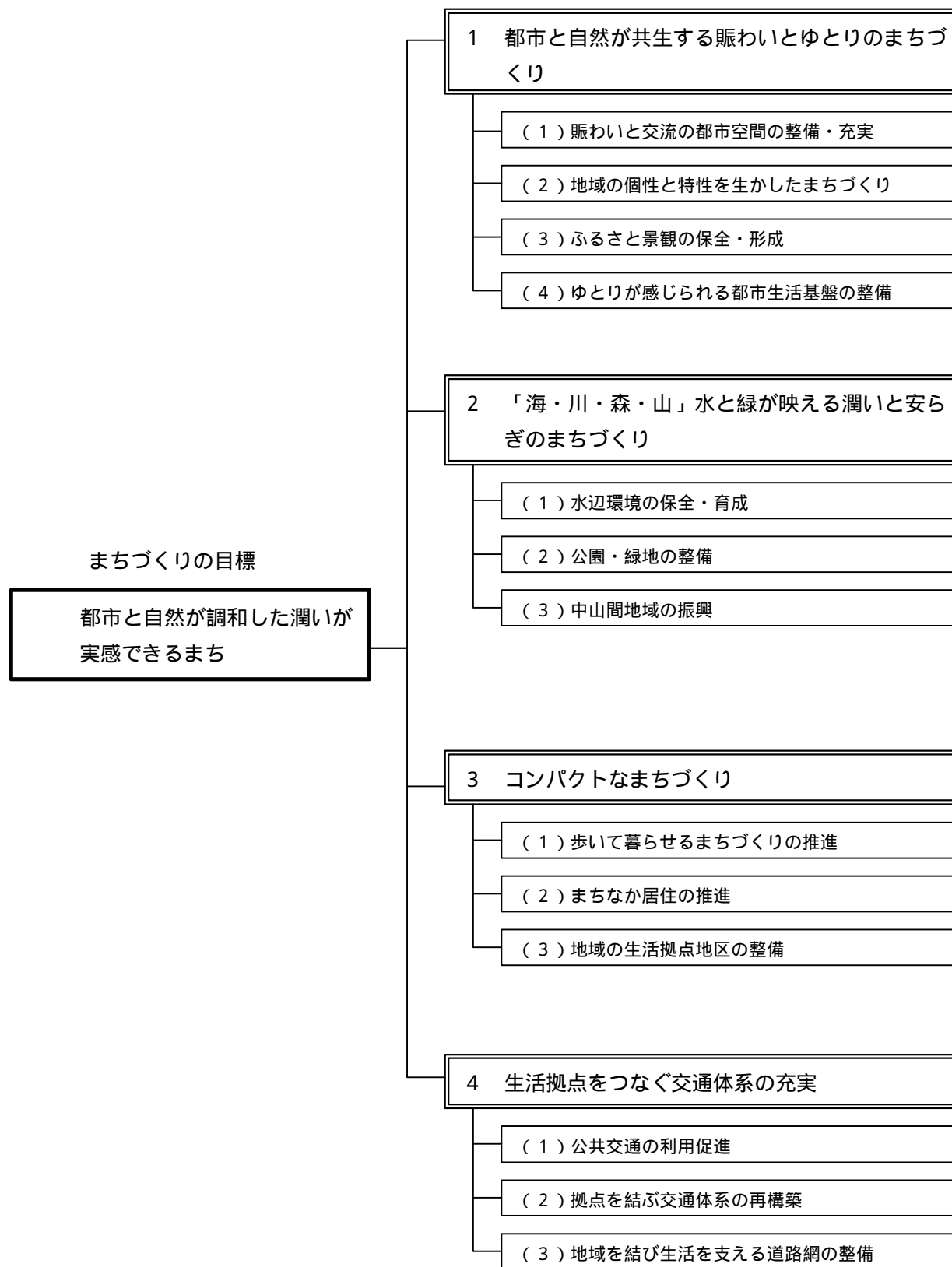
個性と創造性に満ちた活力あふれるまち
さまざまな資源を生かしながら、富山の魅力を高め、新しい価値が創造できるまちづくりを進めます。

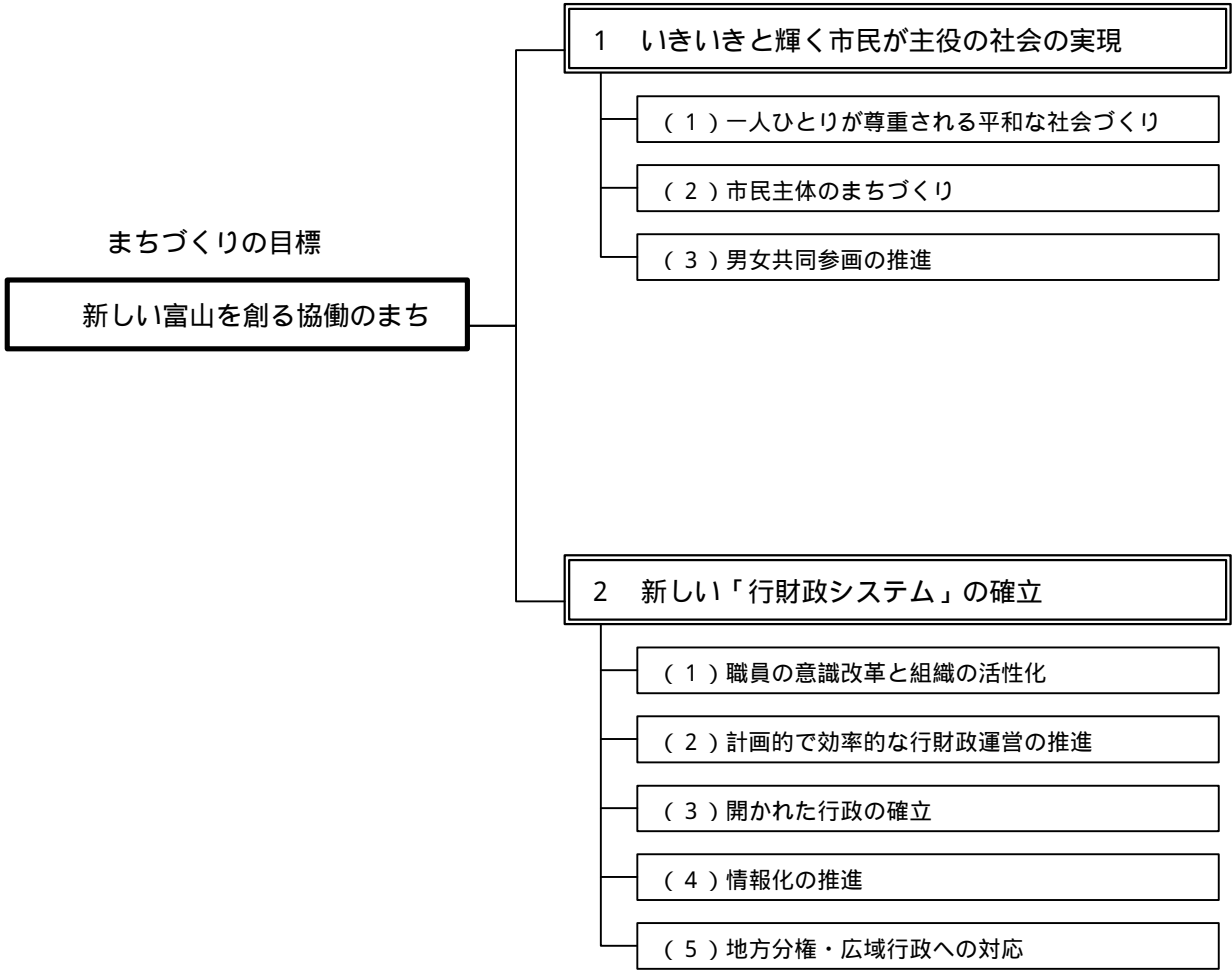
協働

新しい富山を創る協働のまち
市民が主体となった取り組みを促進し、新しい時代に持続的に対応できる協働のまちづくりを進めます。

富山市総合計画施策の体系（案）







「時代の潮流」「富山市の特性」「まちづくりの主要課題」「まちづくりの目標」の関連

